

DATA：薬物療法室

- 施設認定：地域がん診療連携拠点病院
- 資格：がん薬物療法専門医1名、がん化学療法看護認定看護師2名、外来がん治療専門薬剤師2名



薬物療法室 HP

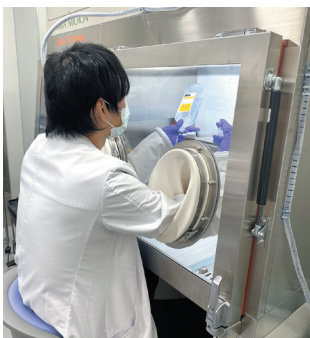
ゆとりある空間で治療に臨める 新薬物療法室が外来棟2階に完成

近年、がん薬物療法の進歩は著しく、治療効果の高い薬剤や副作用の発現を抑える薬剤が次々と登場し、外来で安全に抗がん剤治療を行うことができるようになりました。当薬物療法室の治療件数も増加傾向となっています。以前の外来薬物療法室は手狭となり、多様な薬剤やその副作用への対応を安全・確実に行うことが求められることから、2023年9月、外来棟2階に薬物療法室を新設しました。

新しい薬物療法室は、安心・安全、そして効率的に治療を行うことを念頭に、受付や相談室、薬剤を調合するミキシングルームを併設し、バリアフリートイレを増設するなど、患者さんやスタッフの動線に配慮することで、待ち時間短縮にもつながるように設計しました。また、これまで13床だった治療ブースを18床に増床し、各ブースを壁で仕切り、よりプライバシーに配慮した空間としています。

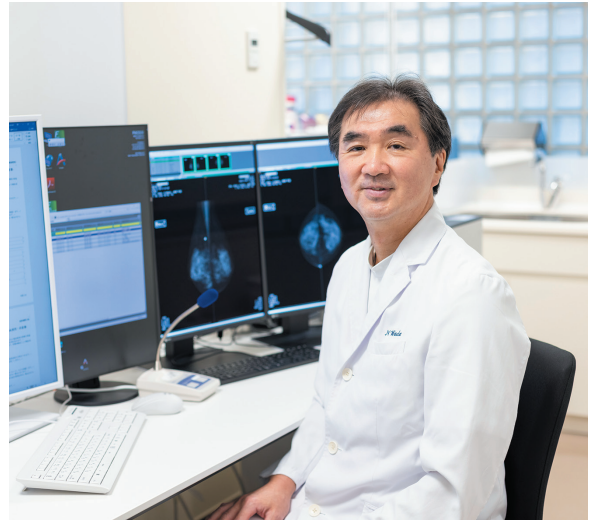


薬物療法室エントランス正面



ミキシングルーム

患者さんが安全・快適に過ごせる薬物療法室を新設



がん薬物療法の知識・技術を持つ 医師・看護師・薬剤師が常駐

薬物療法室には、がん薬物療法専門医の資格を持つ医師1名、看護師8名（うち2名はがん化学療法看護認定看護師）、外来がん治療専門薬剤師の資格を持つ薬剤師2名が在籍しています。

通常のがん薬物療法は各科主治医が方針決定し投薬のオーダーを行い、薬物療法室で点滴治療を行います。治療開始前後に看護師、薬剤師も患者さんの状態を確認します。問題があれば当室の医師がコーディネーターとなり、担当医師や他職種含めて横断的に連携を図りながら、問題解決にあたります。

看護師は抗がん剤の投与を医師の指示のもと行っています。新薬物療法室では、時間短縮と利便性を考慮し、看護師による抗がん剤の血管確保（点滴針挿入）が可能となるように静脈注射実施に関する指針を改定しました。

抗がん剤投与は、定められた院内研修を修了した看護師のみが行うことができ、抗がん剤の管理法についての知識と一定の技術を習得することで安全性を担

安心・安全で効率的な薬物療法を目指す

薬物療法室

保しています。さらに当室の看護師は薬剤投与中のモニタリングを始め、急変時の初期対応、主診療科との調整のほか、アピアランスケアなど薬物治療を受ける患者さんやご家族の心理的・社会的支援といった重要な役割を担っています。

薬剤師は、従来の抗がん剤に加え分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など多種多様な薬剤の管理や主治医への処方提案、患者さんへの薬剤の副作用の説明・指導、当日の血液検査値の確認と調剤、当院と近隣薬局との薬薬連携ということまで、幅広く業務を行っています。

薬物療法に関わる全スタッフで高いレベルのチーム医療を目指す

当室の役割は、主診療科の主治医が処方した抗がん剤を安全かつ確実に投与することですが、そのためには各科との情報共有や院内の多職種連携が重要と考え、体制を改めて構築し連携をスムーズに行えるようにしました。

例えば血管外漏出が生じた場合、薬剤の種類や皮膚症状に応じ看護師が初期対応と当室の医師や主治医への報告を行い、主治医による判断と処置、さらには必要に応じて皮膚科医と連携できる仕組みを整えました。その他、抗がん剤曝露対策や各副作用時の対応なども整えることにより、当室の医師、看護師、薬剤師、主治医、救急外来などと連携し、患者さんのみならず医療者側も安心して医療を提供できるような体制となっています。

また当院は、歯科大学附属病院として歯科・口腔外科との連携体制が大変充実しております。抗がん剤治療の代表的な副作用として口腔粘膜炎などがありますが、薬物療法を受けるすべての患者さんに対して治療前に口腔内チェックを行うことで口腔内トラブルを予防し、治療中も口腔衛生管理を徹底することで、予定された抗がん剤の治療回数・日程を完遂することが可能です。このように、薬物療法に携わるスタッフがお互いの業務を認識し、一つのチームとして連携することで安全な薬物療法を提供できるよう、運営しています。

地域がん診療連携拠点病院として

当院は、地域がん診療連携拠点病院として、地域の皆様へ質の高いがん医療を提供するための一役を担っています。前述のとおり新しい薬物療法室の開室にあたっては、設備面のみならずスタッフの知識・技術・院内連携体制といったソフト面においても、当室が起点となり病院全体で安全で質の高いがん薬物治療が提供できるよう体制の整備に取り組んでまいりました。

地域の先生方とは直接お会いする機会は少ないですが、今後も当院へ安心して患者さんをご紹介いただけるよう、スタッフ一同、より安全で快適な薬物療法を目指してまいります。

Dr's profile



Noriaki Wada
和田 徳昭 医師



出身地

栃木県佐野市

趣味

Apple 信者(窓に浮気はしない)、メタボ対策のエクササイズ(ジムや屋外でランニング)



スポーツ歴

中学と大学時代は陸上部でハードルに熱中

医師になったきっかけ

理系の私が代々続く家業を継ぎたくなくて、親に文句を言われず、自分も納得できる職業が「医師」だった

好きな言葉

今日が人生で一番若い日(何を始めるにも遅くはない)

【掲載写真について】感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

『issou』では毎月読者アンケートを行っております。広報誌の質向上のため、下記二次元コードよりアンケートの回答へご協力をお願いいたします。



本号に関するご意見をお寄せください



医療機関の先生方へ

市川総合病院 初診事前予約申込書 検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539

開室時間 月曜日～金曜日:午前9時～午後5時 土曜日:午前9時～12時(第2土曜日は休診日)